

人文科学研究所研究叢書

23.『アジア史における法と国家』

2000年3月30日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格5,100円（税別）

ISBN 4-8057-4205-4

国家制度の比較史的分析のための序説	菊池 英夫
中国古代の法典編纂について	池田 雄一
市に集まる人々 —張家山漢簡『奏讞書』 案例二二をめぐって	飯島 和俊
隋唐時代のタングートについて —西夏建国前史の再検討（1）	岩崎 力
日本・高麗関係に関する一考察 —長徳三年（九九七）の高麗来襲説をめぐって	石井 正敏
沈萬三一族の藍玉の獄	川越 泰博
親族へのサダカの分配について —初期法学派の学説と預言者のスンナ	医王 秀行
マムルーク朝における遺産相続 —セント・カテリーヌ修道院文書の事例から	松田 俊道
16世紀オスマン朝のエジプト支配についての若干の考察 —アラビア語とトルコ語の年代記史料の性格をめぐって	熊谷 哲也
イギリスのインド統治機構の再編成 —1858-72年	山崎 利男
あとがき	